

人権アラカルト

すべての人が、幸せになる権利を持っています。
人権について、身近なこと、小さなことから、始めませんか？

毎年6月23日から6月29日までの一週間は「男女共同参画週間」です。

みんなが力を発揮できる環境へ ～女性潜水艦乗組員誕生～

海上自衛隊では、2018年の配置制限解除以降、女性が潜水艦の乗組員として活躍しており、2020年に初の女性乗組員、2021年には初の女性幹部乗組員も誕生しました。潜水艦は閉鎖環境での生活となるため、プライバシーの確保や体力的な課題が指摘されてきましたが、最新の潜水艦たいげい型では女性専用の居住区画やシャワー室が整備されるなど、安心して勤務できる環境づくりが進んでいます。

女性幹部乗組員の一人は、船務士として艦の運航を補佐しています。海流などを考慮した効率的かつ安全な航路の調整のほか、艦が浮上して水上航走する際に、ほかの船舶との接触を回避するため哨戒長へ進言を行います。また、機密文書やデジタルデータの管理のサポートも担当しています。装備面の変化について本人は「『うずしお(従来艦)』がガラケーなら『たいげい』はスマホを操作している感覚」と表現し、これまで人力で回していた弁の操作をタッチパネルで行えるようになったこと、潜望鏡もコンソール操作で外部状況がディスプレイに表示されるようになったことなどを挙げます。これまでの体力勝負だった仕事も『たいげい』の運用からは女性でも楽にこなせるようになったとのこと。

もう一人の女性乗組員は水測員で、ソナー(水中音波探知機)で音を聴く担当です。潜水艦には窓はなく、ソナーで周りの音を聞きながら海中を進みます。有事の際に敵の潜水艦を探知するのも音、浮上時に他船と衝突しないために付近の船舶を把握するのも音です。運航中は24時間の3交代で勤務しています。緊張感のある任務の一方で、ソナーがイルカの「キュイキュイ」という楽しそうな鳴き声を捉えたときは、とても癒やされるそうです。

たいげい型は女性が乗艦することを前提に造られていて、乗員も男女ともに生活しやすい環境にしようとしています。そのため「女性だから」と意識することや、やりづらさを感じることもなく、とても過ごしやすいとのこと。

二人は女性の潜水艦乗組員がまだ多くない現状を踏まえ、「自分が後輩のモデルケースになる」という自覚を持って職務に臨んでいます。自衛隊では女性の艦長や戦闘機のパイロットの誕生など、活躍の場は着実に広がっています。

WPS(Women,Peace and Security/女性・平和・安全保障)の視点では、女性の参画は「配慮」ではなく、意思決定などに主体的に参加し、組織の実効性を高める取組みです。多様な人材が参加できる環境は、見落としを減らし、意思決定の質や持続的な任務遂行を支えます。「誰が向いているか」ではなく、「どうすれば誰もが力を発揮できるか」を考えることが、男女共同参画の確かな一歩となります。